令和６年度　第４回　三ヶ日中学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和７年２月５日（水）　１５時００分から１７時００分まで
２　場　　所　　三ヶ日中学校　会議室
３　出 席 委 員　　髙橋一浩、御園崇、渥美浩明、清水一則、清水久美子
　　石田義樹、鈴木あゆみ
４　欠 席 委 員　　岡本和久、長坂恭輔、寺田祐真
５　オブザーバー　　井口敏浩（三ヶ日支所）
６　学　　校　　江間昌史（校長）、宮津宗之（教頭）、
　　岡田充弘（教務主任）、西田光男（CS ディレクター）
７　学校教育委員会　牧野知子（指導主事）
８　傍　聴　者　　なし
９　会議録作成者　　CS ディレクター　西田光男

１０　議長の選出について
　出席した委員から、議長の選出について、これまで同様に高橋会長を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

１１　協 議 事 項
（１）学校関係者評価について
（２）学校運営協議会自己評価について
（３）次年度の学校運営の基本方針について

１２　会 議 記 録
　司会の宮津教頭から、委員総数 10 人のうち７人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）学校関係者評価について
議長の指示により、岡田教諭からの資料（生徒・保護者・教員による学校評価）の説明があった。その後、委員が３グループに分かれて、その結果について生徒の考えを聞く場を設けた。生徒へのヒアリング終了後に、委員に意見を求めたところ、以下の発言があった。
（ア）評価が低い項目について
・私のグループの３人の生徒は、３人とも将来の夢をしっかりともち、両親もその夢を理解していたようである。また、毎日計画的に学習しているようで感心した。
（髙橋委員）

・宿題については両親にチェックしてもらっているようだった。両親との会話が多いことが、家庭学習の充実につながっているようだ。両親との会話を増やすにはどうしたらよいかと問うと、「家事を分担すればよいのでは」と言っていた。また、計画的に学習を進めるために、どうすればよいかと問うと、「今は与えられた課題を週ごとに提出することが多いけれど、単元ごとに提出するという形にすれば、自分なりに計画的に進められると思う」と答え、自分が進めやすい学習の仕方についてよく理解していると感じた。（御園委員）

・私のグループの２人の生徒も、親との会話が多く、勉強を見てもらっているようだった。計画的に学習を進められているようだった。（鈴木委員）

・前向きで、意識が高い子供たちで、計画的に学んでいるように感じた。（渥美委員）

・「計画的に家庭学習を進めている」の教員からの評価が３０％である理由をしりたい。（清水一則委員）

→以前までの学習が身に付いていないという生徒の実態があり、そこに気付いて自ら取り組んでほしいという思いがある。部活動などがあり、忙しいという側面もあるが、時間的なゆとりがないというわけではないから、自ら復習するという習慣を身に付けて、学力を確かなものにしてほしいという考えだと思われる。（宮津教頭）

・学習が苦手な生徒には、どのような手立てをとっているのか。（清水久美子委員）

→教師が個別に対応するのはもちろんであるが、教師一人では難しいこともある場合は、その学習の得意な生徒が教えるという学び合いという形を生かしている。（宮津教頭）

・将来の夢に向けて、両親と話しながらしっかりしたビジョンをもって取り組んでいるようだった。もし、生徒が希望している職業の方が地域にいるのであれば、そういう方と触れ合えるようにするとよいと思う。中学生と地域が結び付くことは、防災の観点からも重要なことであると思う。（清水久美子委員）

→総合的な学習の時間以外でもつながりがもてるようにしていきたい。（宮津教頭）

・将来の夢がもてない生徒のために、地域の働く人たちの話を聞いたり、職業体験をしたりしていくことはとても大切だと思う。（石田委員）

（イ）評価が高い項目について

・挨拶の評価が生徒や保護者からは高いのに、教師からは低い理由を尋ねてみたら、先生の異動や交代（産休など）が多く、先生の顔を覚えられないからという面があるのではないかと答えていた。（石田委員）

→挨拶が習慣化しているという姿はよいが、挨拶が惰性となったり、形骸化に陥ったりすることを危惧している。（宮津教頭）

・通学路などの危険個所の把握するために、生徒たちから情報を募るようにしていくのもよいと思う。（清水一則委員）

・職業体験に対する地域の方々の反応を知りたい。（渥美委員）

→事業所などは確保できている。ただ、繁忙期と重なるみかん採り体験は、実施が天候に左右されることもあり、難しさを感じる。また、遠方の事業所での職業体験は往復の時間を考慮すると依頼できないので、自ずと範囲は限られてしまう。（宮津教頭）

・評価とは別に、生徒からの要望が二つあったのでお伝えしたい。一つ目は、白靴の校則を見直してほしいということと、二つ目は女子生徒のタイツははきづらいので何とかならないでしょうかということだった。

→ルール上、タイツは認められているが、周りがはかないとはきづらいという気持ちもわかる。生徒の意見を聞きながら、検討していく。（宮津教頭）

（２）学校運営協議会の自己評価について

議長の指示により、宮津教頭から資料（学校運営協議会の自己評価）の説明があった。その後、委員に意見を求めたところ、以下の発言があった。

・学校運営協議会自体の認知度が低いと思う。「PTA との違いは何？」とよく聞かれる。一般の方々から見るとよく分からない。三ヶ日中に限らず、全市的に認知度が低い。「学校運営協議会とは何か」を分かりやすく情報発信していくことが必要。（石田委員）

・地域ができる学校支援といえば、こども食堂や不登校支援の施設があるが、それらを運営している側からは、「利用しませんか」という声掛けはしにくいので、そこはジレンマを感じるところである。（御園委員）

・親や教師には相談しにくいことがある場合、相談できる場所、相談できる人を紹介しておくことが大切だと思う。（渥美委員）

・児童委員としては民生委員の方々とも協力して、困っている子供たちへの対応を続けている。特に、「自宅から出られない不登校の子が引きこもりになる」という状況は避けるようにしていきたいと思う。また、現在三ヶ日町には「こども食堂」に当たる施設がないので、まちづくり協議会とも相談して立ち上げを検討している。できれば学習支援もできるようなものになるとよいと考えている。（清水久美子委員）

・まちづくり協議会で、こども食堂のような体制を立ち上げていきたいと考えている。（渥美委員）

・親とのコミュニケーションがうまくいかない子供たちもいるから、親や大人と話ができるような場を設けていくのもよいと思う。　（髙橋委員）

・困っている子供たちを地域で助けていけるようになればよいと思う。

（鈴木委員）

・家庭内に中学生がいない世帯では、学校だよりなどを回覧しても読んでいないということがある。

防災における中学生の役割は大きい。実際、被災した地域では避難所で中学生が活躍したという話も聞くので、地域の防災教室や防災訓練に中学生も参加して、地域の方々とつながりをもっておくとよい。小学生は、敬老会などでお年寄りと交流することがあるが、中学生にはそういう機会はないので、何らかのつながりをもたせたい。　（清水一則委員）

→子供のための組織や役割をもつ人たちとの連携を深め、情報発信をしていきたい。　（宮津教頭）

（３）次年度の学校運営の基本方針について

次年度の学校運営の基本方針については、会の冒頭に校長から説明があり、議長がそれをふまえての意見を求めたところ、以下のような発言があった。

・「主体性を育む」ことに重点をおきたいということだったが、一年間生徒の様子を見てきて、自分としては生徒の自主性は高いと感じている。　（清水一則委員）

→確かに主体性が高い生徒もいるが、育っていない生徒もまだまだいる。今の教育は生徒が失敗しないように目を掛け、手を掛けているので、生徒は「できた」という成功体験が多く、成就感も得ることができる。その一方で「失敗から学ぶ」という体験も大切であるので、試行錯誤の体験の中から主体的に学ぶ力を身に付けさせたいと考えている。　（江間校長）

・三ヶ日中の生徒たちが特にそういう傾向にあるということか。（清水一則委員）

→三ヶ日中が、というよりも現代の子供たちが、ということもあると思う。三ヶ日中の生徒たちは誠実で、人懐こく、素直であるが、もしレールから外れたらどうしてよいか分からず、戸惑ってしまうのではないかという心配がある。

（岡田教諭）

→どこの学校でも同じような課題を抱えているので、現代の子供たちの傾向であると言えると思う。　（宮津教頭）

・いわゆる荒れた中学生という生徒はいなくて、真面目で優秀な生徒が多いと思う。そこは別の見方をすれば、叱られることが少なく、そういうことへの耐性に欠けているのかもしれない。大人が子供に気を遣う時代になったと感じる。

（髙橋委員）

・今は大声を出して叱ると虐待という判断になる。現代は子供のままでいたい若者が増えているという。実際に、30 歳ぐらいまで精神的に成人していないという若者が多いらしい。原因としては、ゲームに接する時間が長く、原始体験が少ないことが考えられている。（清水久美子委員）

・三ヶ日青年の家では、ピザ作り体験というのがあるのですが、火を点ける際に、マッチを初めて擦るという 20 代の教員もいたので、原始体験の不足というのもあるかもしれない。また、住んでいる地域によって、生徒たちの雰囲気の違いというものは確かにある。（御園委員）

・先程の生徒との話の中で、「ほめられたい」という気持ちはあると言っていたので、どのようにほめられるのがよいか質問してみた。すると、「面と向かってすごいねと言うのではなく、離れたところで、すごいねという会話が聞こえるように小声でするよい、という研究結果がある」と答えてくれた。なるほどとは思ったが、現代は、経験ではないものを知識としてネットで得ることができるが、本当の知識ではない部分の不確かさも感じた。（御園委員）

・部活動の地域移行について、学校運営協議会で話し合ったり、決めたりするのか。（渥美委員）

→スポーツ少年団などの団体から、運営母体の作り方、指導者の在り方などに対する意見を聞きながら、地域移行に向けて話し合っていきたい。学校運営協議会は意見を聞く場として重要である。（江間校長）

・地域や保護者からの具体的な要望や意見を聞く場を設けていくことが大切であると思う。（渥美委員）

司会から、来年度の学校運営協議会の日程と委員の任期に関する説明があった。また、第１回会議は 2025 年４月２２日（水）午後２時 30 分より三ヶ日中会議室で開催する旨の報告があった。